

永瀬 翼



渋谷の雑踏の中で疲れた心にす〜っと入り込んでくる歌だなぁ。それが第一印象。聴いてると清らかな気持ちに戻って来るっていうかね。すっと思ってきて浸透してくる。声も甘いし、マスクも甘いけど、歌から感じられる情景は甘あまじゃなくて、真摯に向きあっていて、それを素直に伝えようって姿勢が魅力なんだ。永瀬さんの歌って、ラブソング聴いても生きるってことに歌の本質が繋がっている感じがする。

彼の歌を聴きに来る人たちの中で「初めて聴いた時いろんな事が重なって辛い時期で通りがかりに歌聴いて涙が止まらなくなった」という人が本当に多い。この時期の路上は過酷なのです。寒いんじゃないって、痛い。なので、暖かい場所で永瀬さんの歌声で更に身も心もあたたまってね。

ヒサシ the KID (THE BEACHES)

彼の歌は圧巻ですごい存在感。

ピーンと張り詰めた歌声と耳元で語りかけるようなやさしい歌声の緩和。この絶妙さ加減でいつもグイグイ歌の世界に引き込み聴き手を魅了する。

バンドでは数々のロックフェスで片手の抑揚で

観客を操っているのかな？って思う程踊らせ沸かせる彼。そんな曲達をギター一本で「イエ〜イ」とグラスを掲げちゃうような興奮度まで上昇させる熱さもある。オリジナル曲に加えて、実は毎回カバー曲の選曲が楽しみ！ユーミンの「ルージュの伝言」から高田渡の「鎮静剤」ボ・ガンボスの「魚ごっこ」桑田佳祐まで出てくる選曲の幅広さ。一番しみじみ聴き入ったのは、坂本九の「上を向いてあるこう」深い心の奥の方に抱えるさみしさと滲み出る優しさが素敵なんだ。今日は何を選曲して歌うのかな？



南澤 時正

時正さんの歌は愛にあふれている。

歌の中にあやうさや弱さが描かれているんだけど、そういう気持ちを温かく包み込む不思議な力があって、聴きながら温かい気持ちになりながらもジーンとしてしまうのです。臆病さや痛みや闇等の心情が描かれているのに、歌が暗くならず柔らかい印象を受けるのは、きっと

そこに許しが存在しているからなんじゃないかな…。それは自分にも他人にも。そんな時正さんの視点が歌の根源にあって、それが以前に増して優しさに包みこまれる印象に繋がっているように思う。歳を重ねるごとに時正さんの歌には、優しさが溢れていくんだ。この優しさは強さから生まれているんだろうな〜。そんな歌をね、冗談まじりのMCと共にサラッと歌うから、すっごい渋いんだ。やさしくて温もりのある声にも包まれて、微量の哀愁にやられてください(笑)

【永瀬 翼】 <http://ameblo.jp/tsubasasunam/>
毎週水曜日・金曜日渋谷路上

【ヒサシ the KID】 <http://hisashi-the-kid-schedule.tumblr.com/>
2012/3/3(SAT)「男のひな祭り〜貴女に捧げます!@下北沢 CCO
井上鉄平(BAZRA)、ヒサシ the KID(THE BEACHES)GONDA、高哲典
2012/3/30(FRI)【Parade】@新宿 Rock In Rolling Stone
[DJ]西村道男 (Nur.)ヒサシ the KID (THE BEACHES)
タイラダイスケ (FREE THROW)佐々木健治 (Rolling Stone)[VJ]eetee

【南澤 時正】→3月31日 西麻布レッドシューズにて
音魂イベント「ボイス」を企画出演